



子どもたちの「いのちの安全教育」

プライベートゾーンってなに？

皆さん【プライベートゾーン】って知っていますか？

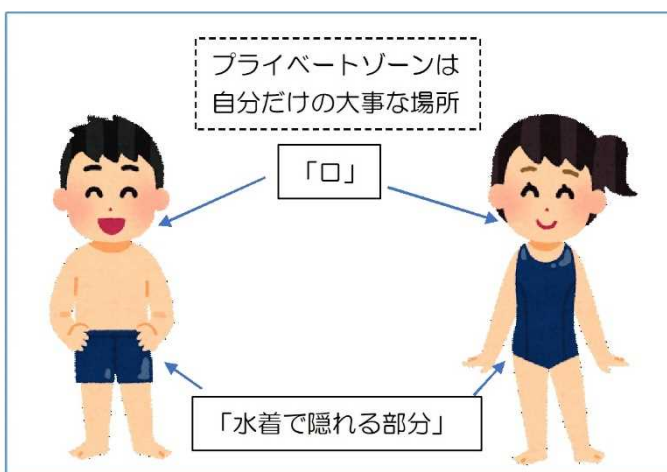
「水着を着ると隠れる部分」「口」のことを言います。

老若男女、自分だけの大切な場所であり簡単に見せたり触られたりしてはいけない場所です。

プライベートゾーンとは

「水着を着ると隠れる部分」「口」のこと

- 自分だけの大切な場所。
簡単に見せたり触らせたりしてはいけない。
- 見られたり触られたりしそうになったら、
「嫌」と言う、大人に相談するよう教える。



特に子どもは正しい知識がないままに成長してしまうと、知らず知らずのうちに加害者になってしまうこともあります。性暴力の加害者・被害者・傍観者にならないためにも、大人がプライベートゾーンについて、しっかりと教えていくことが大切です。

プライベートゾーンを教えるおすすめのタイミングは、子どもが異性や自分の体に興味を持ったときです。幼児期の子どもは好奇心旺盛です。お父さんやお母さんの体の違いや、成長していく自分の体の変化について、強い関心を示すことがあります。

子どもが自分の性について興味を持ったら、「**自分の体にはプライベートゾーンがあること**」、「**プライベートゾーンはとても大切な場所であること**」をしっかりと教えてあげましょう。

親子で一緒にお風呂に入るタイミングなどを利用すれば、自然な流れでプライベートゾーンについて伝えることができます。

◆子どもからのSOSがあったら？

いつもと違う子どもの様子に気づいたら「何か困っていることがあるの？」「なんでも話してね」「何があってもあなたの味方だよ」などの言葉をかけて、安心して話せる雰囲気を作ってあげましょう。根気よく耳を傾けることで話してくれる子どももいます。

内閣府の調査結果(平成29年度)によると、女性の13人に1人が性被害に遭っています。そして被害者の1割が小学生以下で、男の子の被害もあります。

知識のない子どもは抵抗することや相談することもできず、被害だと気づくまでに時間がかかることもあります。

大人がしっかりと知識を身につけて、子どもに教えていくことが被害を防ぐ道ではないでしょうか。

市職員の育児休業取得促進の取組



市では、職員一人ひとりが家事・育児・介護などの、自分の生活と仕事を両立し、自身の希望どおりにやりがいを持って働けるよう、令和3年6月に「伊勢原市職員の仕事と生活の両立応援プラン」を策定し、取組を進めています。

このプランでは、いくつかの数値目標を掲げていますが、その一つを「男性職員の育児休業取得率30%」（令和7年度）としています。（※ 令和元年度は8.7%）

男性職員の育児休業取得が進むことは、特定の職員に負担が偏らない組織として効率的・効果的に機能する職場になる大きなきっかけにもなることから、「仕事と家庭の両立支援制度の周知」「育児休業等を取得しやすい職場風土の醸成」「育児休業等を取得中の職員に対する支援」など、目標の達成に向けて様々な取組を進めています。

「男女共同参画」の視点で

災害について考えてみませんか？

災害国日本。災害はいつ起こるか分かりません。

阪神・淡路大震災、東日本大震災の教訓が生かされる社会を実現するには、災害の時に男女がどういう困難を抱えるか考えてみる必要があります。

災害時に抱える困難は、男女で違いがあります。平常時からある社会の課題が、災害時に顕在化するためと言われています。例えば、次のような事例がありました。

男性…仕事の責任・家庭の経済的プレッシャーを感じやすく、アルコールやタバコへの依存や、避難者や支援者とのコミュニケーション不足による仮設住宅での孤立・孤独死があった。

女性…家事・育児・介護による家庭責任の過度な負担がかかったり、震災で新たにDVが始まったりした。



こうした、災害時に抱える困難を軽減するには、意思決定の場や現場への女性の参画、男女のニーズの違いの理解促進など、あらゆる防災・復興施策への男女共同参画の視点が必要です。

また、東日本大震災では、「女性リーダーがいないこと」「子育てや介護に関する視点の欠如」などの要因から、様々な課題が浮き彫りになりました。そうした反省から、「男女共同参画の視点を取り入れた防災教育」「女性防災リーダー育成」など、様々な市民活動が生まれています。

私たち男女共同参画推進委員会としても、男女共同参画の視点からアクションを起こしていきたいと思えます。災害に強い社会を一緒に作っていきましょう！

参考：独立行政法人国立女性教育会館「男女共同参画の視点による災害対応研修」

編集 伊勢原市男女共同参画推進委員会
編集部会

発行 伊勢原市人権・広聴相談課
人権・男女共同参画推進係
伊勢原市田中 348
電話：0463-94-4716（直通）
FAX：0463-92-9009
E-mail：jinken@isehara-city.jp

【編集後記】

新型コロナウイルスのオミクロン株が世界で猛威を振るっています。

世の中では、オンラインでのやりとりが一気に進み、生活の中にも入ってきました。もしかしたら、いま私たちは一つ
の大きな変換点にいるのかもしれない。

より良い変化となるようにしていきたいですね。